

高等学校学習指導要領の目指す英語教育の可視化 －外部検定試験 TOEFL Junior[®] Standard を通して－

児玉靖明・亀谷みゆき
朝日大学英語教育センター

Visualizing the effectiveness of English education led by MEXT curriculum guidelines for high schools using TOEFL Junior[®] Standard as an assessor

KODAMA Yasuaki & KAMEGAI Miyuki
English Education Center, Asahi University

Abstract

In Japan, the MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) new curriculum guidelines were officially implemented in 2022 starting with first-year students in high schools, which will transition to second- and third-year students in the coming years. English education based on the new curriculum guidelines are expected to help high school students acquire the basic knowledge [*chishiki*] and skills [*ginou*] of the English language. In addition, it is anticipated to develop their abilities to think [*shikouryoku*], make decisions [*handanryoku*], and express themselves [*hyougenryoku*] in English. However, the question is how it can be assessed whether students can successfully acquire these skills through the English education based on the new curriculum guidelines. This paper will illustrate the possibility of using the TOEFL Junior[®] Standard test, which was developed for junior and senior high school students all over the world by Educational Testing Service (ETS), to examine the effectiveness of English education led by the latest MEXT guidelines in Japan.

1. はじめに

新しい学習指導要領が、小学校において令和2年度から、中学校においては令和3年度から全面実施され、高等学校においては令和4年度から年次進行で実施されている。この学習指導要領では、全ての教科等の目標や内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。外国語科においては、知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、繰り返し思考・判断・表現することを通して獲得さ

22 高等学校学習指導要領の目指す英語教育の可視化 -外部検定試験 TOEFL Junior[®] Standard を通して-
れ、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関連し合いながら育成されることが必要と記されている。つまりは「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にし、実際に「何ができるようになったのか」を見取る必要があると言えるだろう。そこで本稿では、世界最大のテスト開発機関の一つである ETS (Educational Testing Service) が英語を学習する世界中の中学・高校生向けに開発した TOEFL Junior[®] Standard を、学習指導要領が目指す英語教育の観点から精察し、TOEFL Junior[®] Standard が日本の中学・高校生が学校で学ぶことによって身に付いた英語力を測るのに適したものであるかを考察したい。

2. 日本の英語教育政策

国際化やグローバル化という言葉が使われるようになって久しいが、21世紀に入り「ヒト・モノ・カネ」の国境を越えた移動が加速化し、経済・社会を中心に世界がボーダレス化の一途をたどっている。瀧口(2019)は2000年以降、国の英語教育政策について話し合う場に、経済界からの代表者も加わるようになったことを指摘しているが、経済界からの国民の英語力に関するニーズも加味し、2002年(平成14年)文部科学省は「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想を策定した。この中で国民全体に求められる英語力として、「日常の話題に関する通常の会話(同程度の読む・書く・聞く)ができる(高校卒業者の平均が英検準2級~2級程度)」と達成目標を具体的に記述した。また、同時に英語教員の資質向上では、英語教員が備えておくべき英語力の目標値を英検準1級、TOEFL550点、TOEIC730点程度と定めた。その後、2013年(平成25年)に閣議決定された「第2期教育振興基本計画」では、高等学校卒業段階で英検準2級~2級程度以上の中高生の割合を「50%」と初めて数値による目標設定をおこなった。2018年(平成30年)に閣議決定された「第3期教育振興基本計画」では、英語力について外国語の習熟度や運用能力を測る国際的な指標である CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) を用い、中学校卒業段階で CEFR の A1 レベル相当以上、高等学校卒業段階で CEFR の A2 レベル相当以上を達成した中高生の割合を5割以上にするという目標設定を行った。2022年(令和4年)8月には、「英語教育・日本人の対外発信力の改善に向けて(アクションプラン)」が公表され、日本の未来を担う若者の英語力や対外発信力の改善について考えていく必要性を訴え、中高生の英語力の達成度合いに自治体間においてばらつきがあることから、自治体の取組状況を一層可視化し、改善を加速させ学校英語教育の底上げを目指すという。

このように、グローバル化する中で世界と向き合うことが求められている状況から、日本人として自分の意見や考えを英語で発信する力が必要とされており、英語教育政策はその時代の経済的・社会的ニーズを反映しながら変遷してきたと言える。

3. 学習指導要領の目指す英語教育

学習指導要領は、その時代や社会情勢の変化を見据えて、児童生徒たちが今後社会に出て生きていくために必要な資質や能力を学校で身に付けられるよう、おおよそ十年毎に改訂される。平成に入ってから的高等学校学習指導要領の変遷を見てみると、平成元年（1989年）の改訂において「外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」ことが目標に組み込まれ、惟任（2017）は平成10年（1998年）改訂でコミュニケーション重視の方向性がさらに顕著になったと述べている。平成21年（2009年）改訂では、「生徒が英語に触れる機会を充実する」こと、および「授業を実際のコミュニケーションの場とする」ために、「授業は英語で行うことを基本とする」と記された。最も直近に改訂された高等学校学習指導要領（平成30年（2018年）改訂）においても「授業は英語で行うことを基本とする」という考えは踏襲されており、CAN-DO リストの形での学習到達目標を設定し、四技能五領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」）においてバランスよくコミュニケーション能力・発信力をさらに高める工夫が求められている。

小学校・中学校の学習指導要領は、それぞれ平成28年と平成29年に改訂され、小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から全面実施されたものが最新である。この改訂においては、これまでの学習指導要領の成果と課題等を踏まえ、小学校においては3・4年次（中学年）に外国語活動を、5・6年次（高学年）に教科として外国語が導入された。また、中学校においても高等学校と同様に授業で四技能五領域をバランスよく扱うこと、授業も「英語で行うことを基本とする」等といった改訂がなされた。今回改訂された小・中・高の学習指導要領は、これまでのものと大きな方向性は同じであるが、より英語を用いた発信力を育成することを目指すものと言える。そのためには言語を使用する目的をはっきりさせ、使用場面や状況を設定し、言語活動を通して「理解していること・できることをどう使うか」という「思考力・判断力・表現力等」の育成が求められている。

学習評価については、これまでも観点別学習状況の評価が行われてきたところではあったが、特に高等学校では地域や学校によってその取組に差があったため、高等学校における観点別学習状況の評価をさらに充実させ、その質を高める観点から、指導要録の参考様式を改善し、これまでの「評価」「修得単位数」に加え「観点別学習状況」を記す欄を新設した。この観点別学習状況の観点とは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つで、これは学習指導要領が育成を目指す資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のそれぞれを評価においても観点別に見取ることを意味している。

また、改定された学習指導要領には「どのように学ぶか」という、学習する方法についても具体的に示されている。学習指導要領の総則には「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に

24 高等学校学習指導要領の目指す英語教育の可視化 -外部検定試験 TOEFL Junior[®] Standard を通して-

向けた授業改善を行うこと」と記され、この「主体的・対話的で深い学び」つまりは「アクティブ・ラーニング」を授業の中で取り入れ、「知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることの過程を重視した学習の充実」を図ることがすべての教科・科目において求められている。

では、そのような学習指導要領の趣旨に則った英語の授業を通して学んだ英語力を、何をもって生徒が「使えるようになった」と可視化できるだろうか。学校では生徒たちが授業を通して「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたかどうかを判断するのに英語の試験を実施することになる。

4. 英語試験の4つの観点

Green (2014) によると、外国語試験を実施することによって得られるデータには二つの種類があるとされる。一つは言語学習に関して、その学習到達目標への進捗具合を測る目的のために集めるデータで、これらは学校や教育機関において教育的アセスメント (educational assessment) として行われている。もう一つは、あらかじめ設定されたレベルや標準に達するに十分な言語能力が備わっているかどうかということに関してデータを集める熟達度アセスメント (proficiency assessment) である。英語の試験として多くの人にとって最も身近に感じるものは、中学生や高校生の時に受験した学校の定期考査であろうが、これは前者に分類され、世間一般で対策本等が多く出版されているような英語検定試験等は後者にあてはまる。

根岸 (2017) は、英語のテストを論じる際の4つの観点として、妥当性 (validity)、信頼性 (reliability)、波及効果 (impact)、実用性 (practicality) を挙げている。妥当性とは、テストが測ろうとしている知識や能力を実際にそのテストが測れているかどうかということである。例えば、「聞くこと」の能力を測りたいが、リスニング問題を作成し録音する時間がなかったので、AさんとBさんの対話の SCRIPT を印刷しテストを行ったとする。この場合、たとえ印刷された英文が対話文であったとしても、「読む」能力が測られることになり、「聞くこと」の能力は全く測られていないため、本テストの聴解力を測る妥当性は低いということになる。信頼性は、何度その試験を実施しても同じような結果がでるかかどうかということである。同じ能力の人物（その人の能力は一定と仮定する）が試験を受けるたびに結果が大きく異なるようでは、信頼性が高いテストとは言えないだろう。波及効果とは、そのテストが学習や指導に及ぼす影響のことで、良い影響 (positive washback) の場合もあれば、あまり良くない影響 (negative washback) の場合もある (Green, 2014)。実用性とは、そのテストの作成・実施・採点・結果の解釈が容易かどうかという点である。テストには妥当性、信頼性、波及効果を勘案して作成することはとても重要であるが、実際に実行可能かどうか、時間と手間はどの程度

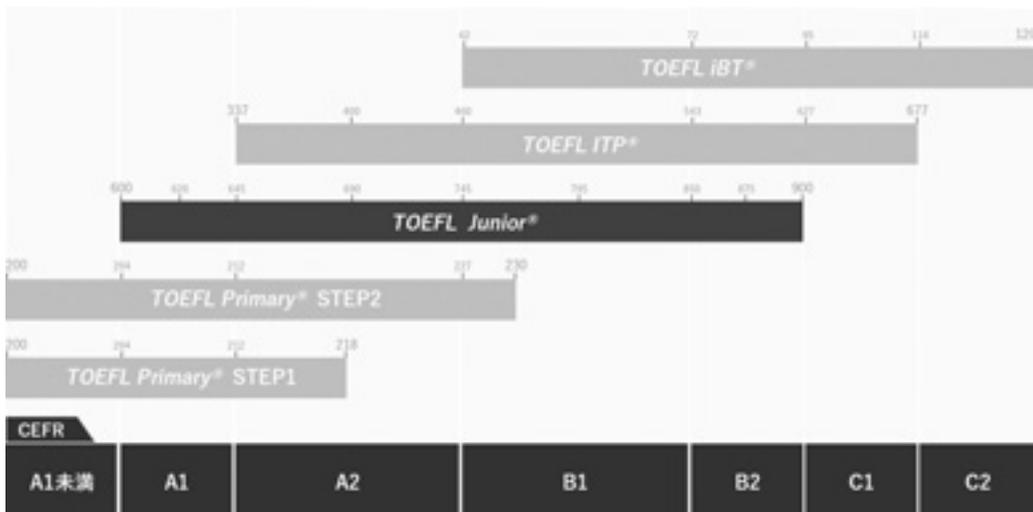
かかるかという実用性もバランスよく考えていくことが大切であると言える。

本稿では TOEFL Junior[®] Standard が、学習指導要領に基づいた外国語の授業を通して生徒たちが身に付けた英語力を可視化するのに適しているかを考察するが、特に観点別学習評価の「思考・判断・表現」の観点で英語力を測る試験として妥当性があるのかどうかということに注意を払い分析を進め、そのテストとしての英語教育への波及効果についても触れようと思う。

5. TOEFL Junior[®] Standard

TOEFL Junior[®] Standard は、日本でもよく知られている英語試験である TOEFL や TOEIC を開発・管理している Educational Testing Service (ETS) が、主に英語を母国語としない世界の中学・高校生のために2010年に開発したテストである。測定するレベルは CEFR A 2～B 2 レベルで、2 技能版 (Listening および Reading) のマークシート方式のテストである。TOEFL Junior[®] Standard で出題される英語は、英語圏の中学・高校生の学校生活において実際に使用されている英語で、テストは「リスニング」(約40分)、「文法・語彙」(25分)、「リーディング」(50分) の3つのセクションに分かれている。スコアはセクション別に正解数を基に算出され、それぞれのセクションのスコアは200～300の間で5点さざみになっている。3つのセクションの合計スコアは600～900で表される。このテストは TOEFL iBT[®] への橋渡しとなるテストの役割も担っており、TOEFL Junior[®] Standard のホームページによると、現在65以上の国で活用されている。

ETS が開発・管理する TOEFL 種類の相関表



TOEFL Junior[®] Standard 公式ウェブサイトより (https://gc-t.jp/about_test/junior/)

6. TOEFL Junior® Standard 問題分析

リスニング

TOEFL Junior® Standard のリスニングは、全部で42個の設問があり、最初の10間は学校内でのさまざまな指示に関する問題（一つの指示につき設問も一つ）、次に短い会話に関する問題（一つの会話に設問数は3つ以上）が続く。その後、授業または討議を聞いて設問に答える形式のものがある（一つの話や討論につき設問数は4つ以上）。カテゴリーとして、学校内での指示と短い会話の問題はノンアカデミックに、授業または教室での討論の形式のものはアカデミックに分類されている。分類がノンアカデミックであってもアカデミックであっても、すべての問題は場面設定が「学校」であり、これは、受験者が英語圏の中学校や高校で生活を送るうえで必要なスキルを備えているかを問う問題となっている。以下に具体を示し検証をすすめる。実際の問題はETSが公開していないため、TOEFL Junior® Standard テスト公式問題集の Practice Test の問題を使用することとする。

【学校内の指示（ノンアカデミック）】

Narrator: Listen to a teacher talking to a group of students.

Man: I know a lot of you having trouble finding information for your research projects. Some of you have already contacted me about arranging a field trip to the public library to look for books on your topic. I have spoken with the school principal, and she has arranged for a bus to take any interested students to the public library this afternoon. If you would like to go on this trip, please come see me before noon to sign up.

What is the teacher mainly talking about?

- (A) How to do research in a library
- (B) A special trip to the public library
- (C) The deadline for turning in research projects
- (D) Different ways students can get to the library

解答 (B)

これは教師が生徒らに話をしているという場面で、教師が生徒全体に伝えているメッセージを聞き、その内容の要点を捉える設問である。学校では、このように教師が生徒に連絡を伝える場面はよくあり、生徒はその情報の要点を聞き取る必要がある。

学習指導要領の外国語科の「思考力, 判断力, 表現力等」の育成に関わる目標として, 「コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 日常的な話題や社会的な話題について, 外国語で情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。」と記されている。この設問は, 教師からの短い指示であるがその場面と状況を判断し, 指示の要点を的確に捉える必要があり, 「思考力, 判断力, 表現力等」を用いて正答を選ばなければならないと言えるだろう。

【短い会話 (ノンアカデミック)】

Narrator: Listen to a conversation between two students as they leave a classroom.

Girl: Wow, that was a fun math class!

Boy: Do you really think so? Mr. Watson lost me when he started talking about calculating the areas of circles and triangles. I just didn't get it.

Girl: Yeah, that was hard. But after he showed us some examples, it all started to make sense. Like when he measured the volleyball and then calculated the volume? Then it was perfectly clear to me.

Boy: By the time he pulled out the volleyball, I was already lost! He was just talking too fast for me. I couldn't keep up. There's no way I'm going to be able to do the assignment for Friday's class.

Girl: How about if we work on it together tonight? I could explain the concepts to you, and I promise I won't talk too fast!

Boy: That'd be great. You're pretty good at explaining things. Oh, but I have basketball practice tonight! I can't miss the practice. We have a big game on Saturday. What about right after school?

Girl: That doesn't work for me. I've got a piano lesson. What about after school tomorrow? The assignment isn't due until Friday.

Boy: Tomorrow's fine. I don't have practice until 6:30.

Girl: OK, let's walk over to the public library tomorrow after school. We can sign up for one of those private study rooms so we don't bother anyone.

Boy: That sounds like a good idea.

Girl: OK, see you then! Oh, and you know what? Why don't you bring your basketball

along? It might come in handy!

Narrator: Now answer the questions.

1. Why does the girl talk about a volleyball?
 - (A) To recommend that the boy try a different sport
 - (B) To suggest that the teacher has an interest in sports
 - (C) To give an example of how the teacher clarified a point
 - (D) To explain how math can improve an athlete's performance

2. What is the boy's main complaint about the teacher?
 - (A) He talks too fast.
 - (B) His explanations are too long.
 - (C) He does not use good examples.
 - (D) He does not give enough time to finish assignments.

3. Why can't the boy work on the assignment with the girl tonight?
 - (A) He has a piano lesson.
 - (B) He has basketball practice.
 - (C) He has to study for a geometry test.
 - (D) He has to return a book to the library.

4. What does the girl imply when she asks the boy to bring his basketball?
 - (A) She will use the basketball to help the boy learn math.
 - (B) The boy can practice basketball on the way to the library.
 - (C) They can play basketball then they finish the assignment.
 - (D) She would like the boy to teach her how to play basketball.

解答 1. (C) 2. (A) 3. (B) 4. (A)

この問題は、授業後に教室を出る二人の生徒が、直前まで受けていた授業について話をして
いる場面である。内容的には日本においても生徒同士が授業の感想を伝え合うという場面はよ
くあり、TOEFL Junior® Standardを受験する生徒にも馴染みのあるものであろう。

このダイアログには4つの設問があり、話し手の意図や対話の詳細を把握するもの（設問番号1～3）と、会話全体の流れからなぜ女子生徒が男子生徒にバスケットボールを持って来るよう伝えたのかを推論させるもの（設問番号4）もある。英語をセンテンスごとに単独で理解するのではなく、その英語が発せられる場面や状況、前後の流れから対話の内容や言外の意味を捉える力も必要とされるので、「思考力、判断力、表現力等」の育成がなされないと解答できない設問であると考えられる。

【授業や討論（アカデミック）】

Narrator: Listen to a farmer talking to a group of students on a field trip to a dairy farm.

Man: I'd like to welcome you all to my farm. If you look around, you'll see that I've got a lot of cows and goats, and they produce a lot of milk. I hope you all like milk or at least enjoy some milk products, like ice cream or yogurt. You'll have a chance to try some later.

Animal milk is a very convenient food, and it's been around for so long that many people think we've been drinking it forever. But it is not a very old food, and actually, some foods made from milk are much older. Some experts recently discovered that thousands of years ago, people did get milk from animals, but they didn't drink it. Instead, they used it to make cheese! I was very surprised to learn recently that on the most ancient pots there are traces of cheeses, but not plain milk. This shows that people first turned milk into cheese before they decided to use the milk itself as a food!

Early people were lucky to discover milk, because they needed a food supply they could always count on. Milk was a perfect food, rich in fat and other nutrients. And it was better than meat in terms of its availability. You see, meat was not something you could eat on a regular basis. If you owned only one animal and decided you wanted meat, well, you'd have meat for about a week or so, and that's it. So people just didn't have steady supplies of meat. But milk was different. Even if you only owned one goat, you wouldn't run out of milk because you could go on milking a goat pretty much every day, regardless of the season!

So how do we know that people relied heavily on milk? Well, we know that only female cows, sheep, or goats provide milk. And when archaeologists dig through the remains of old villages, they often find the bones of livestock that people kept. But they don't find bones of many male animals. And that confirms that people kept the animals for milk, not their meat.

Okay, now. Who's ready for some of those milk products I mentioned before? There's nothing like fresh ice cream! Let's head on over to the kitchen area and try some.

Narrator: Now answer the questions.

1. What is the talk mainly about?
 - (A) How cheese was first produced
 - (B) The origins of one of the oldest foods
 - (C) How ancient people found food
 - (D) Areas where ancient people drank milk

2. What does the speaker find surprising?
 - (A) That milk was first used in the form of cheese
 - (B) That ancient milk contained little fat
 - (C) That ancient people preferred drinking milk to eating meat
 - (D) That ancient people used different types of animal milk

3. Based on the talk, what is probably true about the milk supply in early human communities?
 - (A) It was steady and dependable
 - (B) it varied depending on the animal
 - (C) It was only available during certain seasons
 - (D) There was not enough of it to meet the demand

4. Based on the talk, what is probably true about the first livestock herds kept by ancient people?

- (A) They provided little milk.
- (B) They were very large.
- (C) They were difficult to manage.
- (D) They consisted mostly of females.

解答 1. (B) 2. (A) 3. (A) 4. (D)

この問題は、生徒たちが学校のフィールド・トリップで農場を訪問し、そこで農夫の説明を聞いているという場面である。対話ではなくモノローグのレクチャーで、ある程度のまとまった量の英文を聞きながら、牛乳と乳製品の歴史について、その概要・要点とともに詳細も理解しなければならない（設問1および2）。また、レクチャーの中では明示的には述べられてはいないが、レクチャーの内容を的確に理解できれば解答できる推論質問も含まれている（設問3および4）。英語を聞きながら内容を理解し、その「わかったこと」をもとに思考し、的確に判断する能力が求められる設問である。

このセクションで扱われる内容は、最初の2つのセクションとは異なり、学校で学ぶ教科・科目に関連したアカデミックな内容である。高等学校までで学ぶ外国語（英語）以外の教科・科目の知識をスキーマとして生かすことができると、こういったアカデミックな内容のリスニングが理解しやすくなるということは大いに考えられる。学校で学ぶすべての教科・科目を通して幅広い教養を身に付けること、また、英語学習における他教科との横断的な学習も「思考力、判断力、表現力等」が必要とされる TOEFL Junior[®] Standard のリスニングに役立つと言えるだろう。

文法・語彙

このセクションは、手紙・告知・説明・Eメール（以上ノンアカデミック）と、雑誌・記事・伝記等（以上アカデミック）の文章の穴埋め問題（設問数42問）により、生徒が英語を的確に理解するとともに、コミュニケーションの際に必要な文法や語彙の正確な知識を身に付けているかどうかを判断するものである。これは学習指導要領で述べられている3つの観点のうち、「知識・技能」に該当すると考えられる。

リーディング

TOEFL Junior[®] Standard のリーディングは、Part 1 のリスニングや Part 2 の文法・語彙

32 高等学校学習指導要領の目指す英語教育の可視化 -外部検定試験 TOEFL Junior® Standard を通して-
と同様に全部で42個の設問がある。Part 3 のリーディングで扱われる文章は、英語圏の中学生や高校生が毎日の学校生活において目にすると思われる図表、Eメール、新聞や雑誌の記事等（以上がノンアカデミックと分類）、また、自然科学・社会科学等の解説文、国語の授業で目にするような物語調のフィクション等（以上がアカデミックと分類）である。それぞれの文章には、4～8つの設問が続く。

ではリーディング問題についても、以下に具体を示し検証をすすめる。リーディング問題についても、実際の問題はETSが公開していないため、TOEFL Junior® Standard テスト公式問題集の Practice Test の問題を使用することとする。

To: Ms. Howell
From: Annemarie Dah
Re: This Year's Play
Sent: March 11, 5:12 P.M.

Dear Ms. Howell,

I hope you don't mind my sending this e-mail, but I wasn't able to stay after school to attend the drama club meeting today. I really apologize, but my ride home was not able to wait.

5 Anyway, I hope that there are still acting roles open in the play. If not, then I hope that there is at least a place for me to work on the production crew. I realize that the people who attended the meeting got first pick, but I thought it would still be good to e-mail you my preferences.

10 I enjoy acting in plays more than anything else. Even if it's a minor character, I would love to have one of the acting roles. If they have all been taken, then hopefully I can still work as one of the costume designers. As you know, I have done that before and really enjoy working with the parent volunteers to sew the costumes.

15 I can come to the theater tomorrow morning to talk with you if you are unable to answer this e-mail today. Either way, as I am sure you can tell, I am very excited about the play this year.

Sincerely,
Annemarie

1. Why did the student write the e-mail?
 - (A) To request a role in a play
 - (B) To find out when a performance will take place
 - (C) To accept an invitation to act in a play
 - (D) To congratulate a teacher for putting on a play

2. In line 7, the word pick is closest in meaning to _____.
 - (A) pull
 - (B) place
 - (C) touch
 - (D) choice

3. In line 10, the word they refers to _____.
 - (A) roles
 - (B) costumes
 - (C) designers
 - (D) characters

4. What has the students done for the drama club in the past?
 - (A) Directed a play
 - (B) Designed posters
 - (C) Helped with costumes
 - (D) Played a minor character

解答 1. (A) 2. (D) 3. (A) 4. (C)

この問題は生徒が先生に送ったEメールを扱ったものである。設問は同義語を答えるもの（設問2および3）や事実を確認するもの（設問4）とともに、最初の設問で生徒がなぜこのEメールを送ったのかという書き手の目的を問うている。学習指導要領には「書き手の意図などを的確に理解」する力と、「書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュ

34 高等学校学習指導要領の目指す英語教育の可視化 -外部検定試験 TOEFL Junior® Standard を通して-
コミュニケーションを図ろうとする態度を養う」ことが外国語科の目標に記されている。Eメールや
手紙、メッセージ等には書き手が読み手に伝えたい目的があり、その目的の的確な理解こそが
コミュニケーションにおいては不可欠である。一文一文を分析しながら日本語に置き換えるよ
うな指導では、「木だけを見て森が見えない」ということに陥り、書き手の目的を的確に理解
すると同時に、書き手に配慮した読み方ができるようにはならないと考える。

As its name suggests, the acacia ant lives in acacia trees, and it chooses the most
inaccessible places in the tree to build its nest. When an ant finds itself on a tree, it will
start making a hole beneath one of the thorns, the sharp needle-like structures growing
on the branches. When the hole is big enough, the ant will start a family there. That
5 family soon grows very large, and when it is a few hundred strong, it will protect the
whole tree, from the roots up to the leaves and flowers, by defending against invaders.

Acacia ants ward off not only small animals, like sugar gliders, but also large ones,
like goats or giraffes. As soon as the ants detect an intruder near the tree, they quickly
rush toward it and bite it, injecting a toxic substance into the animal's skin. The
10 substance is not life threatening, but it creates enough pain to make the intruder look
for another tree whose tasty leaves are not so well guarded.

The ants protect the tree because it is in their interest to do so. If a giraffe were to
destroy the tree, it would also mean the demise of the ants' home. Such animals are thus
a threat to the ant. But acacia ants do not frighten away all animals that come near
15 them. Scale insects, for example, are quite welcome, because they produce a sweet juice
the ants enjoy. Some of the ants' food also comes from the acacia tree itself. Acacia trees
provide a kind of oil that is collected by the ants and taken to their nests. It is one of the
favorite foods of baby ants.

1. What would be the most suitable title for the passage?

- (A) A Tasty Tree
- (B) The Tiny Protectors
- (C) Making a Small Home
- (D) Observing a Dangerous Insect

2. Where on the acacia tree do acacia ants build their nests?
- (A) On the leaves
 - (B) Near the roots
 - (C) Under the thorns
 - (D) Inside the flowers
3. What can be inferred from the passage about acacia tree leaves?
- (A) They are eaten by animals.
 - (B) They are shaped like needles.
 - (C) They are extremely poisonous.
 - (D) They are used as a hiding place.
4. In line 7, the phrase ward off is closest in meaning to _____.
- (A) stick to
 - (B) crawl over
 - (C) move from
 - (D) frighten away
5. What do acacia ants do when they sense an animal near the tree?
- (A) They attack the animal.
 - (B) They hide in their nests.
 - (C) They carry their young out of the tree.
 - (D) They use the animal for transportation.
6. In line 10, the word it refers to _____.
- (A) an intruder
 - (B) a tree
 - (C) the skin
 - (D) the substance

7. In line 13, the word demise is closest in meaning to _____.

- (A) decoration
- (B) description
- (C) destruction
- (D) development

8. Ants use the oil of the acacia tree for what purpose?

- (A) Covering their smell
- (B) Feeding their young
- (C) Cleaning their nests
- (D) Fighting their enemies

解答 1. (B) 2. (C) 3. (A) 4. (D) 5. (A) 6. (D) 7. (C) 8. (B)

この文章は、アカシアの木に巣を作って生息するアカシアアリの生態について書かれた自然科学分野の英文である。設問には同義語を選ぶもの（設問4および7）、指示語の指す内容を答えるもの（設問6）、事実情報を特定するもの（設問2、5および8）といった詳細な情報を把握できているかを問うものと、文章全体の要旨をつかみ適切なタイトルを付けるもの（設問1）、明示的に記されていないが前後の文脈から推論して答えるもの（設問3）がある。

同義語を選ぶ設問については、文章自体が自然科学分野のアカデミックな内容で、語彙レベルも少し高いと思われるが、前後の内容を的確に読み取ることができればその語（句）の意味が十分類推できるもので、その語（句）を知っているかどうかという単純な知識を問う設問ではない。

文章全体の適切なタイトルを付ける設問は、センテンス毎の意味のみを理解しようとするのではなく、パッセージ全体の要旨を捉えなければならない。また、前後の文脈から推論して答えを導き出す設問は、英文に含まれる言外の意味を考え深く読み進めていく力が必要となる。これらは本文から得た情報をもとに思考を働かせ、的確に判断する力が必要となる設問である。

7. まとめ

学習指導要領には「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することを通して」「英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に捉え」られるよう指導することが記されている。

コミュニケーションには必ず目的があり、そのコミュニケーションがどこでどのように行われるかという場面と状況がある。コミュニケーションとはこれらの目的や場面・状況などに応じて、相手との関係性を主体的に構築していく営みであろう。だからこそ、指導の中で目的や場面・状況などを設定することで、実際のコミュニケーションの場面において「知識・技能」を活用し、適切に「思考・判断・表現」ができるよう指導していくことが大切である。

授業が変わり、観点別学習状況の評価が本格的に行われるようになりつつある今、教育現場における定期考査も変わらなければならない。根岸（2017）は、中学や高等学校の定期試験で長年出題されてきた「総合問題」の問題点を指摘している。「指導」と「評価」の一体化が求められる定期試験において、「総合問題」というどんな英語の力を測っているのかわからない試験では、その結果から「指導」を振り返るとともに、適切な「学習」へのフィードバックもできない。学習指導要領の改訂に伴い、「知識及び技能」とともに「思考力、判断力、表現力等」を身に付けられるような授業が学校では進められているが、四技能五領域別にこれらの力が身に付いたかどうかを測定する定期試験やパフォーマンステストを研究しないと、結局はテストが変わらないがために英語教育も変わらないということに陥ってしまう可能性がある。

TOEFL Junior[®] Standard は、設問に具体的な場面や状況が設定されていることが多く、リスニングにおいてもリーディングにおいてもその与えられた場面や状況を考えながら、情報やコミュニケーションの目的を読み取り、場面・状況に応じて的確に判断する力、つまり「思考・判断・表現」力が問われている。このことから TOEFL Junior[®] Standard は、生徒が学習指導要領にもとづいた授業において、英語を用いたコミュニケーション能力をどの程度身に付けられたかを可視化するのに適していると言えるだろう。小学校・中学校、そして高等学校での英語の授業が目指すべき方向性と、TOEFL Junior[®] Standard が測ろうとしている英語力の概念が一致しているため、このような外部試験は英語教育に positive washback を与えると考えられる。

参考文献

- 公文教育研究会 “TOEFL Junior[®] Standard とは” TOEFL Primary[®] TOEFL Junior[®] 公式ホームページ Retrieved from https://gc-t.jp/about_test/junior/
- グローバル・コミュニケーション&テストイング（2016）『TOEFL Junior[®] STANDARD テスト公式問題集』くもん出版
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 外国語』東洋館出版社
- 児玉靖明・亀谷みゆき（2021）「主体的・対話的で深い学び」による「思考力・判断力・表現力」の育成を目指した英語の授業づくりーグループ・ディスカッションを通してー「朝日

- 38 高等学校学習指導要領の目指す英語教育の可視化 -外部検定試験 TOEFL Junior® Standard を通して-
大学教職課程センター研究報告」第23号 9-16頁
- 惟任泰裕 (2017) 「学習指導要領改訂にみる戦後日本の英語教育史」『教育科学論集』第20号
1-12頁
- 高橋寿夫 (2004) 「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」に関する一考察 「関西
大学外国語教育研究」第8巻 1-14頁
- 瀧口優 (2019) 日本における英語教育政策への経団連等の影響とその変遷-2000年以降を振り
返って- 「白梅学園大学・短期大学紀要」第55号 67-82頁
- 内閣府 “なぜ学習指導要領が改訂されるの?” 政府広報オンライン Retrieved from
https://www.gov-online.go.jp/k/contents/useful/201903/2_02.html
- 根岸雅史 (2017) 『テストが導く英語教育改革「無責任なテスト」への処方箋』三省堂
- 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語編』開隆堂
- 文部科学省 (2019) 『高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 外国語編 英語編』開隆
堂
- Green, A. (2014). *Exploring language assessment and testing: Language in action*. Routledge.